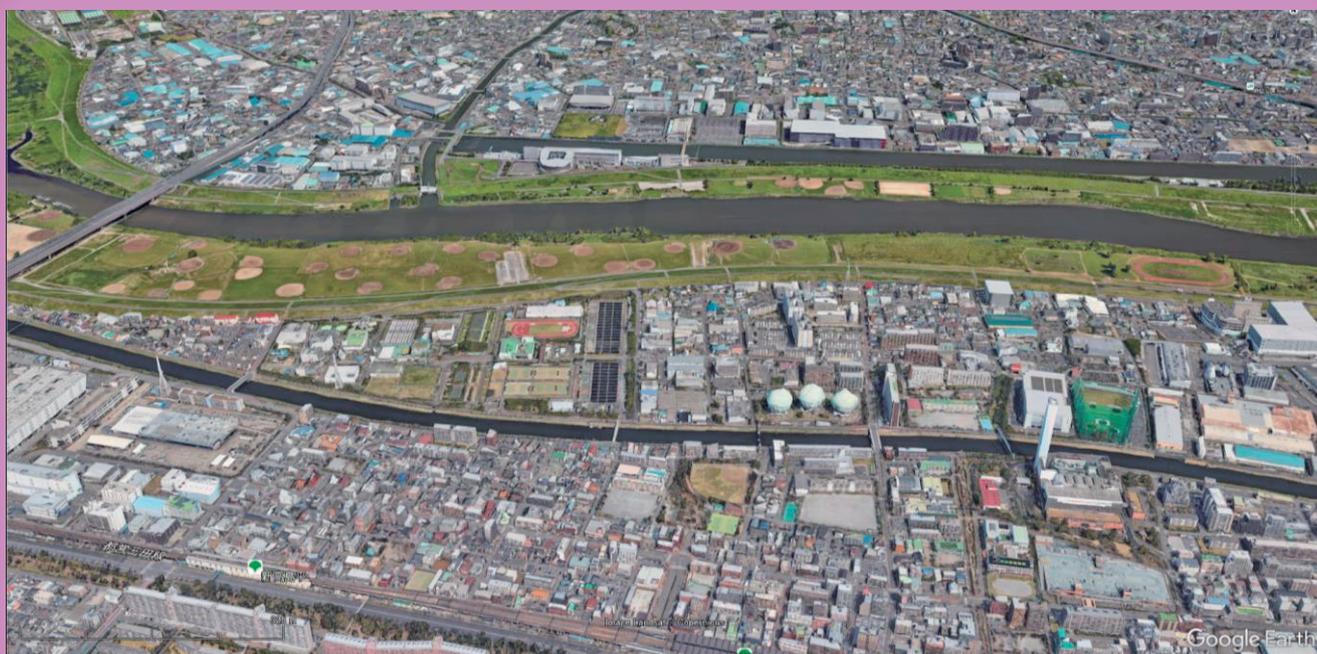


水害時の犠牲者ゼロを目指して

新河岸地区における

水害時の避難ルールブック



google Data SIO,NOAA,U.S.Navy,NGA,GEBCO

このルールブックは・・・

- いつでも見られる場所に置いておきましょう！

令和5年12月 いたばしコミュニティ防災【新河岸地区】

作成の経緯

近年、全国各地で、これまで予想もしなかった規模の水害が相次いで発生しています。

この避難ルールブックは、令和元年度から令和5年度にかけて開催された「いたばしコミュニティ防災【新河岸地区】ワークショップ」での議論をベースに、「荒川下流タイムライン」など議論を踏まえ、万が一の水害時に取る行動などを新河岸地区の皆さんが協力し、作成したものです。

避難ルールブックの使い方

- 大雨のおそれがある時には、ルールブックを参考に命を守る行動を行ってください。
- 日頃から、ルールブックを読んで、とっさの時にすぐに使えるようにしておくことが大切です。



洪水から命を守るために!!

- 早めの避難
- 積極的な情報の収集
- 地域の助け合い

目次

水害のおそれがある場合（危機感の共有）

- 避難情報と川の水位 1
- 水害時の避難ルール 2
- タクシーでの避難（要配慮者） 3
- 各町会・自治会のコミュニティタイムライン 4
- 防災情報の入手 23
- 想定浸水深と想定浸水継続時間 27

より適切な避難に向けて

- 命を守るには 28
- 被害を減らすには 32
- 避難所での生活 33

水害に備えて

- 新河岸地区の水害リスク 37
- 新河岸地区で注意すべき降雨 38
- 降雨と水位の関係 39
- 避難情報と川の水位 40
- 雨や風の強さの目安 41
- 自宅への浸水被害の軽減策 42

新河岸工業会向け

- 事業所の建物・設備被害の検討 43
- 商品・重要データや書類被害の検討 44

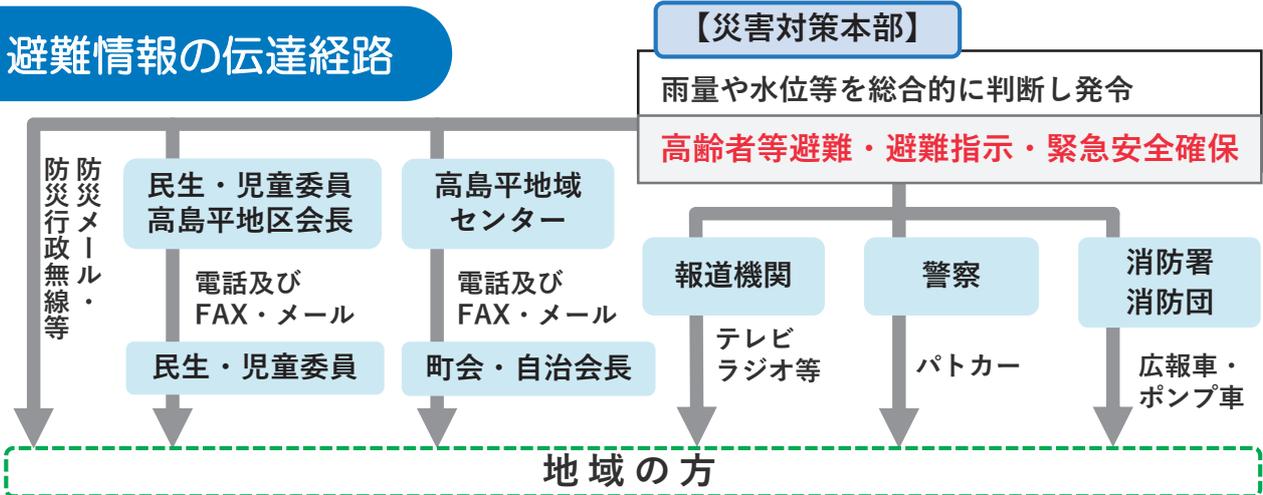
水害のおそれがある場合

避難情報と川の水位

☞ 板橋区では、水害のおそれがある場合に**避難情報**を発表します。

レベル	行動を促す情報	住民が取るべき行動	状況
5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！	災害発生または切迫
← 警戒レベル4までに必ず避難 →			
4	避難指示	危険な場所から全員避難	災害のおそれ高い
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は早めの避難	災害のおそれあり

避難情報の伝達経路

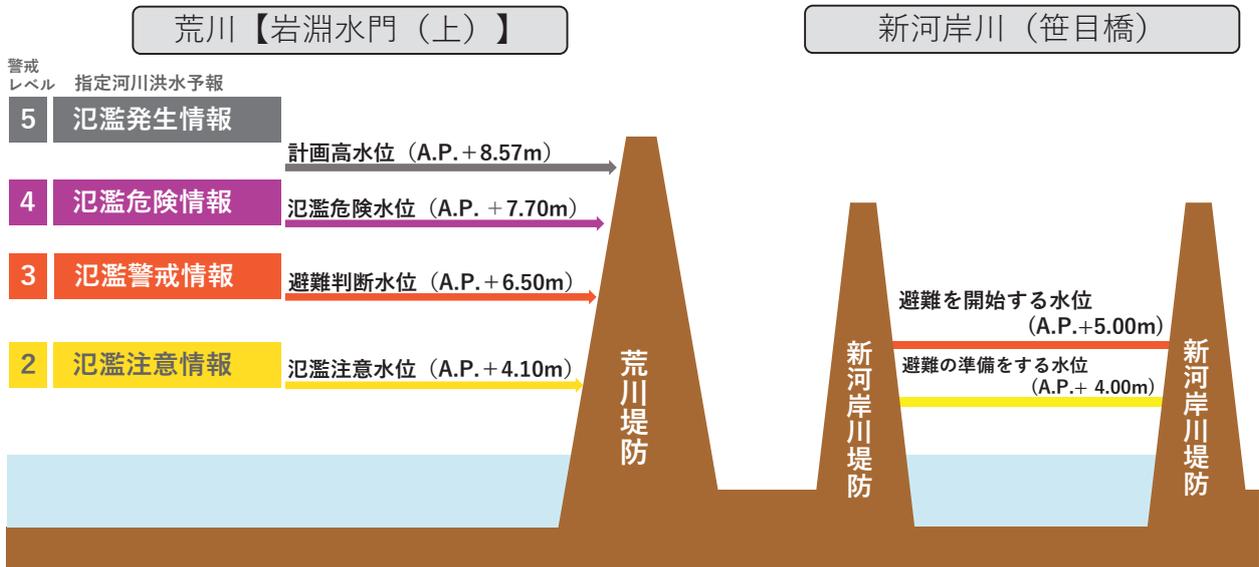


☆荒川【岩淵水門（上）】の水位が約6m、もしくは新河岸川【笹目橋】の水位が約5mに達した時点で災害対策本部より高島平地域センター、民生・児童委員高島平地区会長へ避難所開設情報を伝達します。

洪水予報

荒川・新河岸川

※洪水予報には「氾濫注意情報」から「氾濫発生情報」まで4段階の情報があります。避難判断水位(A.P.6.50m)は避難を行うための猶予時間を考慮した水位です。雨の降り方によっては、水位が急激に上昇することもありますので、余裕をもった行動を心がけましょう。(A.P.: 荒川工事基準面)



水害のおそれがある場合 水害時の避難ルール

! 自宅の想定浸水深 m
ハザードマップで確認し、記載しておきましょう。



平常時・事前

☞ 板橋区防災メール配信サービス・板橋区LINEに登録

登録方法

itabashi@cousmail-entry.cous.jp

上記アドレスに空メールを送ると自動的に返信がきますので、登録が完了となります。



防災メール
はこちら



板橋区LINE
はこちら



注意時期

☞ 板橋区防災メール・LINEから気象警報を受け取る。

※ 荒川では上流の埼玉県の警報も注意しましょう。

☞ 荒川、新河岸川の水位情報に注意

※ 荒川「岩淵水門（上）」
新河岸川「笹目橋」の水位を確認しましょう。



岩淵水門（上）



笹目橋

状況に応じた避難

（避難方法はP.28を参照）



避難の準備を開始

☞ 「避難の支援が必要な方（要配慮者）等」は避難を開始

荒川【岩淵水門（上）】	新河岸川【笹目橋】
水位が約4mを超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時	水位が約4mを超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時

※ 板橋区防災メール・LINEに登録すると、国土交通省と気象庁が共同で発表する洪水予報が配信されます。
→洪水情報の確認はP.23



避難を開始

荒川【岩淵水門（上）】	新河岸川【笹目橋】
水位が約6mを超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時	水位が約5mを超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時

町会・自治会では、

「避難の準備を開始」を 荒川【岩淵水門(上)】約4mと新河岸川【笹目橋】約4m
「避難を開始」を 荒川【岩淵水門(上)】約6mと 新河岸川【笹目橋】約5m

に決めています。

※ 「避難の準備を開始」や「避難を開始」の水位は早めの避難を促す目安であり、洪水予報に基づく「避難判断水位」や「氾濫注意水位」は、P.1に示した水位です。板橋区からの避難情報も発表されますので、情報に従って行動してください。

水害のおそれがある場合

タクシーでの避難（要配慮者）

新河岸地区では、**要配慮者**が避難所に移動する際、共栄交通・光洋自動車（タクシー）の**援助協力**をお願いしています。

①避難対象者

- **要配慮者**および**補助支援者**です。
※提供されるタクシーの台数により乗車可能人数が変わりますので、避難対象者は町会・自治会が作成する要配慮者リストにより決定します。

②避難タイミング

- **高齢者等避難**が発令されたときです。
※新河岸地区代表は、共栄交通・光洋自動車にタクシー配車時刻、台数、乗車人数を確認する
- **タクシー**が出る場合は、対象者に**町会・自治会から連絡**が入ります。

③乗車場所と避難先

【乗車場所】

- **新河岸地区代表が町会・自治会長と相談の上、決定します**

【避難先】

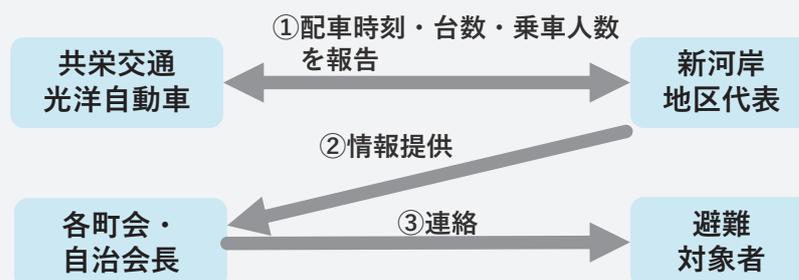
- **区の指定避難所**

④避難手段と事業所の協力範囲

【避難手段】 タクシー

【協力範囲】 **365日24時間対応（空車が近傍にいる場合のみ）**

⑤タクシー避難の連絡方法



※連絡は電話・メール・LINE等で行います

各町会・自治会のコミュニティタイムライン コミュニティタイムラインとは

町会・自治会役員をはじめとする住民が中心となり、水害をもたらすような大雨が予想されるときに、地域に住む住民全員が安全に避難するために、いつ、誰が、どう行動すべきか時系列で整理し、まとめた地域の防災計画のことを『コミュニティタイムライン』と言います。

コミュニティタイムラインを作成し、地域で運用することによって、以下のようなメリットが期待できます。

コミュニティタイムラインの5大効果

- 効果1 災害時に「いつ」「だれが」「なにを」するか整理することで、**防災対応の“抜け”を防げる。**
- 効果2 地域の方々と防災対応を考えることで、防災上の問題点や課題に気づくことができ、**事前に相談や調整ができる。**
- 効果3 あらかじめ防災行動を整理しておくことで、災害時でもあわてることなく、**住民や現場対応者が早めに判断・行動できる。**
- 効果4 日ごろから地域の防災対応を共有しておくことで、**地域の動きをイメージできる。**
- 効果5 防災上の役割や行動を明確にしておくことで、役員等を交替したときに**引き継ぎ資料として活用できる。**



※現場対応者：避難支援者、避難誘導員、避難の声かけをする方等

コミュニティタイムラインのステージ

- タイムラインステージとは、災害警戒から災害発生までの**防災対応を体系的に区分**したものです。
- 各ステージに必要な**防災行動を整理しやすくする**とともに、災害時には関係機関や自治体等がどのような対応を行っているか**わかりやすく共有**できます。
- 令和元年台風19号時を例に避難所開設や避難情報の発出のタイミングを新河岸地区コミュニティタイムラインに反映しました。

新河岸コミュニティタイムラインのステージと板橋区・新河岸地区の主な対応内容

新河岸タイムラインステージ	目安時刻(板橋区)	板橋区の対応内容	新河岸地区住民の主な防災行動
ステージ1 避難の準備	72時間(3日前)～27時間前	今後、状況が厳しくなる可能性がある状況に対し、通常モードから災害モードに切り替え、災害対応に必要な事前の調整や確認を行う段階 避難所開設準備の開始	防災体制の強化 呼びかけの準備 避難準備の呼びかけ
ステージ2 避難の開始	27～11時間前	荒川浸水域全域に高齢者等避難の発令、特定の避難所開設を行い、早期避難を呼びかける段階	防災情報の収集・共有 要配慮者に対する避難支援 早期避難の呼びかけ
ステージ3 地区から脱出	11～3時間前	荒川浸水域全域に避難指示を発令し、浸水域外の避難所も全て開設する	避難情報の収集・共有 住民の避難状況の収集・報告 支援活動の終了
ステージ4 避難の徹底・継続	3～0時間 氾濫発生	台風が最接近・氾濫危険情報(岩淵)が発表 発生した災害に対して、人命救助等の応急的な対応を行うステージ	避難完了 安全確保の徹底 避難の継続

各町会・自治会のコミュニティタイムライン

コミュニティタイムラインの見方・使い方

ステージ	きっかけ情報	町会の行動			個人がすること			
		目標	町会長	役員	新河岸川	低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3~5F)	高層階(6F以上)
72時間前(3日)~27時間前 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散(縁故等)避難呼びかけ開始 住民防災組織等へ情報提供 福祉施設等への避難支援準備 	等)避難の準備を開始する への伝達 □ 役員等を招集し、新河岸地区の班へ情報共有と役割の確認を指示 □ 役員へ避難準備の呼びかけを始めるよう指示	□ 役員等を招集し、新河岸地区の班へ情報共有と役割の確認を指示 □ 役員へ避難準備の呼びかけを始めるよう指示	□ 役員等を招集し、新河岸地区の班へ情報共有と役割の確認を指示 □ 役員へ避難準備の呼びかけを始めるよう指示	□ 要配慮者へ電話を使い、避難の準備を行うよう呼びかける □ 配慮名簿の確認	□ ドマップを確認 □ 持ち出し品を確認 □ 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 □ 町会へ避難先の連絡 □ 貴重品や重要財産を非浸水階に移動 □ 高台への避難準備を始める □ 事前に協力者を探し、確保しておく	□ ドマップを確認 □ 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 □ 飲み物・食料の準備 □ 町会へ避難先の連絡	□ ドマップを確認 □ 避難の検討を行う □ 避難生活用の物品を準備
		分散(縁故等)避難の開始 □ 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 □ 役員等へ要配慮者に対する避難支援を指示 □ 役員に対して地区住民への早めの避難の呼びかけを指示 □ 要配慮者の避難状況の確認	□ 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 □ 役員等へ要配慮者に対する避難支援を指示 □ 役員に対して地区住民への早めの避難の呼びかけを指示 □ 要配慮者の避難状況の確認	□ 住民に電話またはメールを使い分散(縁故等)避難を呼びかける □ 役員が班長へ連絡し、自分の班の協力を依頼	□ 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける □ 民生委員と協力して要配慮者の避難状況の確認	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる □ 民生委員と声をかけてから避難する □ 行動状況を示す	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる	□ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる
27~11時間前 ステージ2	<ul style="list-style-type: none"> 岩淵水門(上)水位(4m) 笹目橋水位観測所(新河岸川)の水位(4m) 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所の開設 	要配慮者は避難開始 □ 荒川・新河岸川の水位、区からの避難情報を町会員に共有する □ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況の集約 □ 必要に応じて避難状況を区へ報告	□ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況を町会長に報告	□ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況を町会長に報告	□ 要配慮者の確認 □ 民生委員と要配慮者の避難状況を町会長に報告	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる □ 民生委員と声をかけてから避難する □ 行動状況を示す	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる	□ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる
11~3時間前 ステージ3	<ul style="list-style-type: none"> 岩淵水門(上)水位(6m) 笹目橋水位観測所(新河岸川)の水位(5m) 氾濫危険情報(治水橋) 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 	住民は地区から離れ避難する □ 荒川・新河岸川の水位、区からの避難情報を町会員に共有する □ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況を町会長に報告	□ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況を町会長に報告	□ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況を町会長に報告	□ 要配慮者の確認 □ 民生委員と要配慮者の避難状況を町会長に報告	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる □ 民生委員と声をかけてから避難する □ 行動状況を示す	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる	□ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる
3~0時間前 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 氾濫危険情報(岩淵)の発表 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	避難完了安全確保の徹底 □ 避難所での対応を継続 □ 安全な場所で町会・地区住民の避難状況の共有 □ 避難者への被害状況の提供(行政からの情報)	□ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況を町会長に報告	□ 避難所の開設支援等を行う □ 避難後に、町会・地区住民の避難状況を町会長に報告	□ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる □ 民生委員と声をかけてから避難する □ 行動状況を示す	□ 自宅から避難を開始 □ 町会へ避難の連絡 □ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる	□ 停電等に備え充電開始 □ 要配慮者は「無事ですパンダナ」を使い、避難したことを知らせる

① いつ:タイムラインステージ/きっかけ情報

- 防災対応を区分化したタイムラインステージを示しています。
- ステージ区分は、板橋区の対応に沿って設定しています。
- **きっかけ情報を見た・聞いた際には、ステージに合わせた行動を行ってください。**

② 誰が:町会・自治会会長・役員/個人(住んでいる階別)

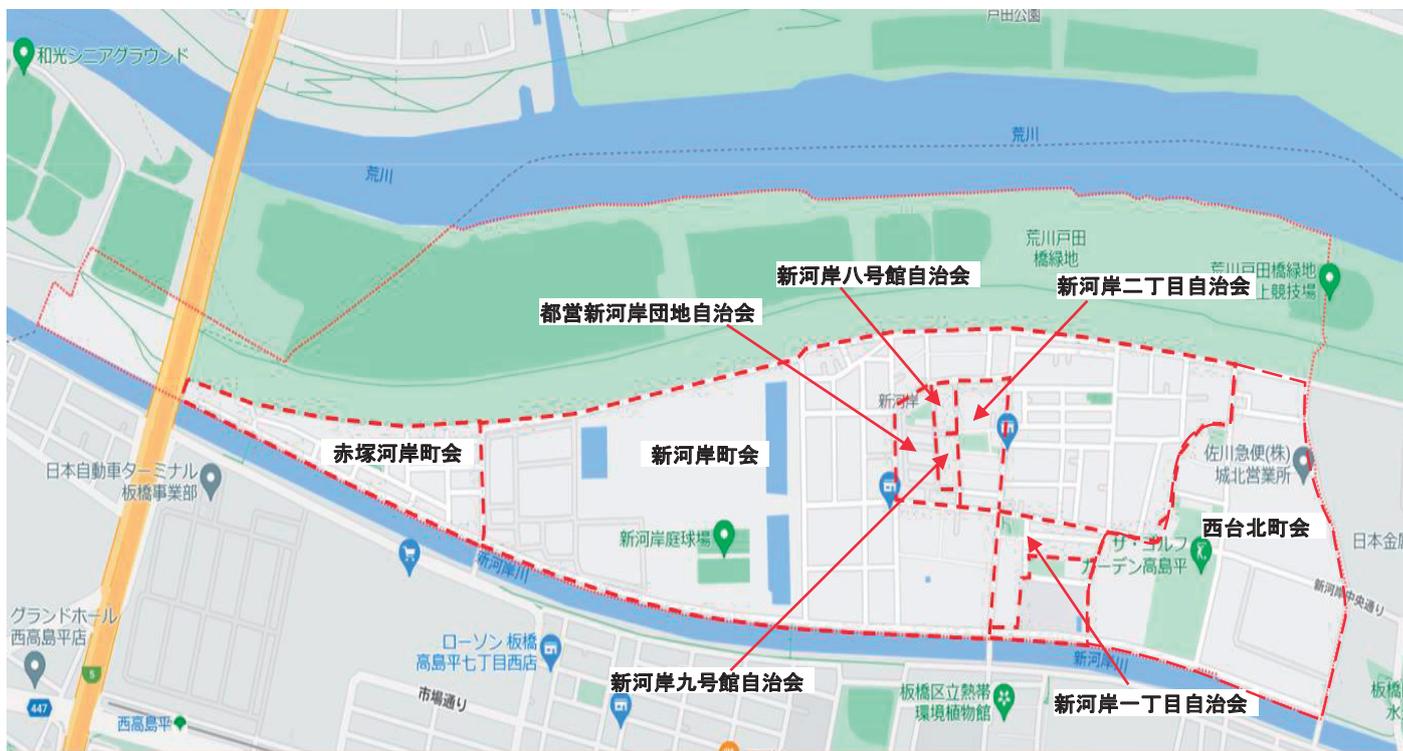
- 地域の役割・立場を示しています。ワークショップでの議論を通じ地域の現状に応じて、整理しました。
- 個人については、住んでいる家の階数に応じて、整理しました。

③ 何を:防災行動

- 水害時にそれぞれの立場・役割の方がどのような対応を行うか、具体的な防災行動とその方法を記入しています。
- **「個人がすること」の欄には独自に気がついた行動を追加していただいてもかまいません。**

※分散(縁故等)避難については、各町会・自治会コミュニティタイムライン上では分散避難と表記していません。分散(縁故等)避難についてはP.28を参照してください。

各町会・自治会のコミュニティタイムライン 町会・自治会の位置図



【町会・自治会の分類とコミュニティタイムライン記載ページ】

町会・自治会名	町会・自治会の分類(高層・低層)	ページ番号
西台北町会	戸建て～9階建てまで混在	7～8
新河岸一丁目自治会	5階～10階建て以上混在	9～10
都営新河岸団地自治会	5階～9階建て	11～12
新河岸八号館自治会	10階建て以上	13～14
新河岸九号館自治会	10階建て以上	15～16
新河岸二丁目自治会	5階～9階建て	17～18
新河岸町会	戸建て～10階建て以上混在	19～20
赤塚河岸町会	戸建て～9階建てまで混在	21～22

西台北町会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	町会の行動		
		目標	町会長	常任理事
72時間(3日)～27時間前 ステージ1 避難の準備	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(町会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 防災情報等の収集と役員への伝達 役員等を招集し、新河岸地区の班への情報共有と役割の確認を指示 住民に対し避難準備の呼びかけを始めるよう、役員へ指示 	<ul style="list-style-type: none"> 住民に対し、電話またはメールを使い、避難の準備を呼びかける 避難行動要支援者名簿の確認 理事と協力して要配慮者へ電話を使い、避難の準備を行うように呼びかける
27時間～11時間前 ステージ2 避難の開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え ※さらに上昇見込みのとき 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 要配慮者に対する避難支援を役員等へ指示 住民に対し早めの避難の呼びかけをするよう、役員へ指示 要配慮者の避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 住民に電話またはメールを使い分散避難を呼びかける 避難行動要支援者名簿を元に要配慮者の避難状況の確認
11時間～3時間前 ステージ3 地区から脱出	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え ※さらに上昇見込みのとき 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難 <ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、区からの避難情報を町会員に共有する 避難所の開設支援等を行う 避難後に、町会内地区住民の避難状況を集約 必要に応じて避難状況を区へ報告 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設支援などを行う 避難後に、町会員・地区住民の避難状況を町会長に報告 要配慮者の避難状況を町会長に報告
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間前～0時間 ステージ4 避難の徹底・継続	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での対応を継続 安全な場所で町会員・地区住民の避難状況の共有 避難者への被害状況の提供(行政からの情報) 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設支援などを行う

町会の行動 新河岸地区理事	個人がすること		
	低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3~5F)	高層階(6F以上)
<input type="checkbox"/> 常任理事と協力して避難行動要支援者名簿を確認 <input type="checkbox"/> 常任理事の依頼があれば、要配慮者へ電話または訪問して避難の準備を呼びかける	<input type="checkbox"/> 家族と避難先・ハザードマップを確認		
	<input type="checkbox"/> 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 <input type="checkbox"/> 町会へ避難先の連絡		
	<input type="checkbox"/> 持ち出し品の確認 <input type="checkbox"/> 貴重品や重要財産を非浸水階に移動 <input type="checkbox"/> 高台への避難準備を始める <input type="checkbox"/> 事前に協力者を探し、確保しておく	<input type="checkbox"/> 飲み物・食料の準備	<input type="checkbox"/> 避難の検討を行う <input type="checkbox"/> 避難生活用の物品を準備
<input type="checkbox"/> 常任理事と協力して、要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける	<input type="checkbox"/> 避難に時間のかかる方は避難開始 <input type="checkbox"/> 要配慮者は「無事ですバンダナ」を使い、避難したことを知らせる		
	<input type="checkbox"/> 町会へ避難の連絡		
	<input type="checkbox"/> 隣近所に声をかけてから避難する <input type="checkbox"/> 行動状況を示す	<input type="checkbox"/> 停電等に備え充電開始	
避難支援者は支援を終えて避難 <input type="checkbox"/> 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認	<p>速やかに避難する 地区に戻らない</p> <p>※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ避難してください。</p>		
<p>警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！</p>			
<input type="checkbox"/> 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認	<p>避難完了 安全確保の徹底 避難の継続</p>		

新河岸一丁目自治会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	自治会の行動		
		目標	自治会長・自衛防災隊	各階理事
72時間(3日)〜27時間前 避難の準備 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(自治会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と各階理事への伝達 防災隊・各階理事等を招集し、情報共有と役割の確認を指示 避難準備の呼びかけを始めるよう防災隊・各階理事へ指示 他町会・自治会との連携事項の確認 防災隊はハンドマイクにて避難準備の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 全戸訪問しチラシを配り、避難の準備を呼びかける 各戸の避難方法の把握(縁故避難か避難所へ行くか)
27時間〜11時間前 避難の開始 ステージ2	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え ※さらに上昇見込みのとき 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集 防災隊は各階理事等に全戸への避難、要配慮者の支援を指示 各戸避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 全戸訪問を行い、バスやタクシーの動いている間の分散避難を呼びかける 要配慮者の避難状況の確認 要配慮者は避難時に無事バンダナ(黄)を玄関に出す 避難所へ向かう人は集会所へ集合し、バスで向かう
11時間〜3時間前 地区から脱出 ステージ3	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え ※さらに上昇見込みのとき 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難 <ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、区からの避難情報を自治会員に共有する 避難所へ向かい、状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 隣近所互いに声かけて速やかに全員避難完了
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間前〜0時間 避難の徹底・継続 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する		

個人がすること

低層階
(戸建て及び2Fまで)

中層階(3~5F)

高層階(6F以上)

□ 家族と避難先・ハザードマップを確認

□ 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡

- 持ち出し品を確認
- 貴重品や重要財産を非浸水階に移動

□ 飲み物、食料の準備

- 避難の検討を行う
- 避難生活用の物品を準備

- 避難に時間のかかる方は避難開始
- 要配慮者は「無事ですバンドナ」を使い、避難したことを知らせる

□ 停電等に備え充電開始

**速やかに避難する
地区に戻らない**

**※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ
避難してください。**

警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！

避難完了 安全確保の徹底 避難の継続

都営新河岸団地自治会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	自治会の行動		
		目標	自治会長	役員
72時間(3日)〜27時間前 避難の準備 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(自治会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 役員等を招集し、自治会の各班への情報共有と役割の確認を指示 避難準備の呼びかけを始めるよう役員へ指示 他町会・自治会との連携事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 住民に連絡網・拡声器を使い、避難の準備を呼びかける 要配慮者に対し戸別訪問し、避難の準備を行うよう呼びかける
27時間〜11時間前 避難の開始 ステージ2	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え ※さらに上昇見込みのとき 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 要配慮者に対する避難支援を役員等へ指示 地区住民への早めの避難の呼びかけを役員等へ指示 要配慮者の避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 各号館委員長に依頼し、住民へ分散避難を呼びかける 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける 要配慮者の避難状況の確認
11時間〜3時間前 地区から脱出 ステージ3	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え ※さらに上昇見込みのとき 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難	
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間前〜0時間 避難の徹底・継続 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での対応を継続 安全な場所で自治会員・地区住民の避難状況の共有 避難者への被害状況の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設支援などを行う

自治会の行動	個人がすること		
	低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3～5F)	高層階(6F以上)
<ul style="list-style-type: none"> □ 避難行動要支援者名簿の確認 □ 要配慮者に対し戸別訪問し、避難の準備の呼びかけと避難の予告をする 	<ul style="list-style-type: none"> □ 家族と避難先・ハザードマップを確認 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 □ 自治会へ避難先の連絡 		
<ul style="list-style-type: none"> □ 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける □ 要配慮者とその家族に対し、避難を行うよう連絡する □ 要配慮者の避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> □ 避難に時間のかかる方は避難開始 □ 要配慮者は「無事ですバンダナ」を使い、避難したことを知らせる 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 自治会へ避難の連絡 		<ul style="list-style-type: none"> □ 停電等に備え充電開始
<p>避難支援者は支援を終えて避難</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 □ 避難後に、要配慮者の避難状況を自治会長に報告 	<p>速やかに避難する 地区に戻らない</p> <p>※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ避難してください。</p>		
<p>警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！</p>			
<ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 	<p>避難完了 安全確保の徹底 避難の継続</p>		

新河岸八号館自治会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	自治会の行動		
		目標	自治会長	役員
72時間(3日)〜27時間前 避難の準備 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(自治会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 役員等を招集し、自治会の各班への情報共有と役割の確認を指示 避難準備の呼びかけを始めるよう役員へ指示 他町会・自治会との連携事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 各階担当者が、各戸にチラシを入れたり、ハンドマイクを使って、避難の準備を呼びかける 要配慮者宅へチラシを入れて、避難の準備を行うように呼びかける 隣近所で避難の声掛けをする
27時間〜11時間前 避難の開始 ステージ2	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え ※さらに上昇見込みのとき 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 要配慮者に対する避難支援を役員等へ指示 地区住民への早めの避難の呼びかけを役員等へ指示 要配慮者の避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者含む全住民宅にチラシを入れて分散避難を呼びかける 要配慮者の避難状況の確認 隣近所で避難の声掛けをする
11時間〜3時間前 地区から脱出 ステージ3	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え ※さらに上昇見込みのとき 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難	
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間〜0時間 避難の徹底・継続 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での対応を継続 安全な場所で自治会員・地区住民の避難状況の共有 避難者への被害状況の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設支援などを行う

自治会の行動	個人がすること		
	低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3~5F)	高層階(6F以上)
<ul style="list-style-type: none"> □ 避難行動要支援者名簿の確認 □ 各階連絡員が要配慮者各戸へチラシを入れて、避難の準備を行うように呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> □ 家族と避難先・ハザードマップを確認 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 □ 自治会へ避難先の連絡 		
<ul style="list-style-type: none"> □ 要配慮者の避難状況の確認 □ 要配慮者とその家族に対し、避難を行うよう連絡する □ 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> □ 持ち出し品を確認 □ 貴重品や重要財産を非浸水階に移動 	<ul style="list-style-type: none"> □ 飲み物・食料の準備 □ 避難の検討を行う 	
	<ul style="list-style-type: none"> □ 避難に時間のかかる方は避難開始 □ 要配慮者は「無事ですバンドナ」を使い、避難したことを知らせる □ 自治会へ避難の連絡 		
		<ul style="list-style-type: none"> □ 停電等に備え充電開始 	
<p>避難支援者は支援を終えて避難</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 □ 避難後に、要配慮者の避難状況を自治会長に報告 	<p>速やかに避難する地区に戻らない</p> <p>※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ避難してください。</p>		
<p>警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！</p>			
<ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 	<p>避難完了 安全確保の徹底 避難の継続</p>		

新河岸九号館自治会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	自治会の行動		
		目標	自治会長	役員
72時間(3日)前 避難の準備 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(自治会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 役員等を招集し、自治会の各班への情報共有と役割の確認を指示 避難準備の呼びかけを始めるよう役員へ指示 他町会・自治会との連携事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 住民にメールで避難の準備を呼びかける 要配慮者へ避難の準備を行うように呼びかける
27時間前 避難の開始 ステージ2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え ※さらに上昇見込みのとき </div> <ul style="list-style-type: none"> 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 要配慮者に対する避難支援を役員等へ指示 地区住民への早めの避難の呼びかけを役員等に指示 要配慮者の避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 住民にメールで分散避難を呼びかける 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける 要配慮者の避難状況の確認
11時間前 地区から脱出 ステージ3	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え ※さらに上昇見込みのとき </div> <ul style="list-style-type: none"> 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難	
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間前 避難の徹底・継続 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での対応を継続 安全な場所で自治会員・地区住民の避難状況の共有 避難者への被害状況の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設支援などを行う

自治会の行動 民生・児童委員	個人がすること		
	低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3～5F)	高層階(6F以上)
<ul style="list-style-type: none"> □ 避難行動要支援者名簿の確認 □ 要配慮者へ電話で避難の準備を行うように呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> □ 家族と避難先・ハザードマップを確認 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 □ 自治会へ避難先の連絡 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 持ち出し品を確認 □ 貴重品や重要財産を非浸水階に移動 	<ul style="list-style-type: none"> □ 飲み物・食料の準備 	
<ul style="list-style-type: none"> □ 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける □ 要配慮者とその家族に避難を行うよう連絡する □ 要配慮者の避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> □ 避難に時間のかかる方は避難開始 □ 要配慮者は「無事ですバンダナ」を使い、避難したことを知らせる □ 自治会へ避難の連絡 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 停電等に備え充電開始 		
<p>避難支援者は支援を終えて避難</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 □ 避難後に、要配慮者の避難状況を自治会長に報告 	<p>速やかに避難する 地区に戻らない</p> <p>※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ避難してください。</p>		
<p>警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！</p>			
<ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 	<p>避難完了 安全確保の徹底 避難の継続</p>		

新河岸二丁目自治会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	自治会の行動		
		目標	自治会長	棟長
72時間(3日)〜27時間前 避難の準備 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(自治会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 棟長を招集し、各階役員への情報共有と役割の確認を指示 避難準備の呼びかけを始めるよう棟長へ指示 	<ul style="list-style-type: none"> 各階の役員へ情報共有と役割の確認を指示 各階の役員へ避難準備の呼びかけを始めるよう指示
27時間〜11時間前 避難の開始 ステージ2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え </div> ※さらに上昇見込みのとき <ul style="list-style-type: none"> 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と棟長への伝達 住民を集会場に集めるよう棟長へ指示 集会場の鍵を開ける 	<ul style="list-style-type: none"> 住民を集会場に集めるよう役員へ指示 自治会長と一緒に避難支援
11時間〜3時間前 地区から脱出 ステージ3	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え </div> ※さらに上昇見込みのとき <ul style="list-style-type: none"> 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難	
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間前〜0時間 避難の徹底・継続 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する		

自治会の行動 各階役員	個人がすること			
	低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3～5F)	高層階(6F以上)	
<ul style="list-style-type: none"> □ 要配慮者含めた全戸を個別訪問し、避難の準備を呼びかける □ 要配慮者含めた全戸を個別訪問し、高齢者等避難が発令されたら集会場へ集まるよう呼びかける 	□ 家族と避難先・ハザードマップを確認			
	<ul style="list-style-type: none"> □ 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 □ 自治会へ避難先の連絡 			
	<ul style="list-style-type: none"> □ 持ち出し品を確認 □ 貴重品や重要財産を非浸水階に移動 	□ 飲み物・食料の準備		<ul style="list-style-type: none"> □ 避難の検討を行う □ 避難生活用の物品の準備
<ul style="list-style-type: none"> □ 各戸訪問し、集会場へ集合するよう声掛けする □ 自治会長・棟長と一緒に避難支援 □ 集会場へ集まった避難希望者に、どこへ避難するか確認 □ 分散(縁故等)避難者を除く避難希望者と一緒に避難所へ移動 	<ul style="list-style-type: none"> □ 避難に時間のかかる方は避難開始 □ 要配慮者は「無事ですバンドナ」を使い、避難したことを知らせる 			
		<ul style="list-style-type: none"> □ 停電等に備え充電開始 □ 自治会へ避難の連絡 		
<p>避難支援者は 支援を終えて避難</p>	<p>速やかに避難する 地区に戻らない</p> <p>※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ 避難してください。</p>			
<p>警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！</p>				
<p>避難完了 安全確保の徹底 避難の継続</p>				

新河岸町会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	町会の行動		
		目標	町会長	役員(防火防災部長が中心に行動する)
72時間(3日)〜27時間前 避難の準備 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(町会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 役員等を招集し、町会の各班への情報共有と役割の確認を指示 避難準備の呼びかけを始めるよう役員へ指示 他町会・自治会との連携事項の確認 役員と一緒に住民に避難の準備を呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> 住民に電話・LINE・車・拡声器・メールを使い、避難の準備を呼びかける 要配慮者宅を戸別訪問したり、電話・名簿・チラシ・車を使い、避難の準備を行うように呼びかける 各部役員が協力して行動する
27時間〜11時間前 避難の開始 ステージ2	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え ※さらに上昇見込みのとき 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 要配慮者に対する避難支援を役員等へ指示 地区住民への早めの避難の呼びかけを指示 要配慮者の避難状況の確認(どこに避難するか指定) 役員と一緒に分散避難を呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> 住民に電話・LINE・拡声器・車・メールを使い分散避難を呼びかける 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける(要支援チームを事前に作っておき、活用する) バンダナを使って要支援者避難状況の確認 役員が班長に連絡し、班の協力を依頼
11時間〜3時間前 地区から脱出 ステージ3	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え ※さらに上昇見込みのとき 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難	
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間前〜0時間 避難の徹底・継続 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での対応を継続 安全な場所で町会員・地区住民の避難状況の共有 避難者への被害状況の提供 住民の意見を最小限聞きながら、避難所で問題を発生させない 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設支援などを行う

町会の行動 民生・児童委員	個人がすること		
	低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3～5F)	高層階(6F以上)
<ul style="list-style-type: none"> □ 避難行動要支援者名簿の確認 □ 要配慮者へ戸別訪問したり、電話を使い、避難の準備を行うように呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> □ 家族と避難先・ハザードマップを確認 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 持ち出し品を確認 □ 貴重品や重要財産を非浸水階に移動 □ 高台への避難準備を始める □ 事前に協力者を探し、確保しておく 	<ul style="list-style-type: none"> □ 飲み物・食料の準備 	<ul style="list-style-type: none"> □ 避難の検討を行う □ 避難生活用の物品を準備
<ul style="list-style-type: none"> □ 要配慮者宅、独居高齢者宅を訪問し、避難を呼びかける □ 要配慮者とその家族に避難を行うよう連絡する □ 要配慮者の避難状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> □ 避難に時間のかかる方は避難開始 □ 要配慮者は「無事ですバンダナ」を使い、避難したことを知らせる 		
	<ul style="list-style-type: none"> □ 隣近所に声をかけてから避難する □ 行動状況を示す 	<ul style="list-style-type: none"> □ 町会へ避難の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> □ 停電等に備え充電開始
<p>避難支援者は支援を終えて避難</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 □ 避難後に、要配慮者の避難状況を町会長に報告 	<p style="text-align: center;">速やかに全員避難 地区に戻らない</p> <p style="text-align: center;">※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ避難してください。</p>		
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！			
<ul style="list-style-type: none"> □ 安全な場所で要配慮者の避難状況の確認 □ 乳幼児の対応 □ ペットの対応 □ 避難所では要支援者は別枠で対応する 	避難完了 安全確保の徹底 避難の継続		

赤塚河岸町会コミュニティタイムライン

ステージ	きっかけ情報	町会の行動		
		目標	町会長	役員
72時間(3日)〜27時間前 避難の準備 ステージ1	<ul style="list-style-type: none"> 分散避難が呼びかけられたとき 住民防災組織(町会)へ区から情報提供されたとき 福祉施設から避難関係の連絡があったとき 	分散避難準備開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 役員等を招集し、町会の各班への情報共有と役割の確認を指示 避難準備の呼びかけを始めるよう役員へ指示 他町会・自治会との連携事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 住民にチラシを使い、避難の準備を呼びかける 要配慮者へチラシを使い、避難の準備を行うように呼びかける
27時間〜11時間前 避難の開始 ステージ2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) 新河岸川笹目橋 →水位が4m超え </div> ※さらに上昇見込みのとき <ul style="list-style-type: none"> 新河岸地区に【高齢者等避難】(警戒レベル3)が発令されたとき 集合場所、特定の避難所が開設されたとき 	分散避難開始 要配慮者避難開始	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・新河岸川の水位、防災情報等の収集と役員への伝達 要支援者に対する避難支援を役員等へ指示 地区住民への早めの避難の呼びかけを指示 要配慮者の避難状況の確認 	
11時間〜3時間前 地区から脱出 ステージ3	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上) →水位6m超え 新河岸川笹目橋 →水位5m超え </div> ※さらに上昇見込みのとき <ul style="list-style-type: none"> 【避難指示】(警戒レベル4)が発令されたとき 荒川治水橋で氾濫警戒情報が発表されたとき 避難所第1段階(氾濫警戒)が開設されたとき 	住民は地区から離れ避難する 風雨が強くなる前に避難する	避難支援者は支援を終えて避難	
警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！				
3時間前〜0時間 避難の徹底・継続 ステージ4	<ul style="list-style-type: none"> 荒川岩淵水門(上)で氾濫危険情報が発表されたとき 【緊急安全確保】(警戒レベル5)が発令されたとき 	確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する		<ul style="list-style-type: none"> 避難所の開設支援などを行う

個人がすること

低層階 (戸建て及び2Fまで)	中層階(3~5F)	高層階(6F以上)
<input type="checkbox"/> 家族と避難先・ハザードマップを確認		
<input type="checkbox"/> 親戚・知人等に受入れ依頼の連絡 <input type="checkbox"/> 町会へ避難先の連絡		
	<input type="checkbox"/> 飲み物・食料の準備	
<input type="checkbox"/> 持ち出し品を確認 <input type="checkbox"/> 貴重品や重要財産を非浸水階に移動		<input type="checkbox"/> 避難の検討を行う <input type="checkbox"/> 避難生活用の物品を準備
<input type="checkbox"/> 避難に時間のかかる方は避難開始 <input type="checkbox"/> 要配慮者は「無事ですバンドナ」を使い、避難したことを知らせる		
	<input type="checkbox"/> 町会へ避難の連絡	
	<input type="checkbox"/> 停電等に備え充電開始	

**速やかに避難する
地区に戻らない**

**※2週間以上浸水が続くため新河岸地区外へ
避難してください。**

警戒レベル4までに必ず避難！逃げ遅れはゼロに！

避難完了 安全確保の徹底 避難の継続

水害のおそれがある場合

防災情報の入手～その1～

確認すべき情報

板橋区からの避難情報を待つだけでなく、**自ら情報を入手しましょう。** 洪水の状況を把握するために、以下の情報に注意しましょう。

- 雨や風などの**気象情報**
- 荒川下流域の**ライブ映像**
- 荒川の**水位情報**
- **避難情報**(高齢者等避難・避難指示・緊急安全確保)
- **避難所開設情報**

防災情報の入手先

	情報入手先	入手方法	情報
携帯電話・スマホ・パソコン	板橋区防災メール 	メール配信サービスメールアドレス itabashi@cousmail-entry.cous.jp 上記アドレスに空メールを送ると自動的に返信がきますので、登録が完了となります。	水位 雨量 気象 避難 避難所
	板橋区公式LINEアカウント 	LINE公式アカウントでは、防災に関する情報ほか、受け取りたい情報を選択できます。	水位 雨量 気象 避難 避難所
	国土交通省川の防災情報「気象×水害・土砂災害情報マルチモニタ」 	https://bit.ly/river itabashi 板橋区内の川の水位や気象警報注意報等が確認できます 	水位 雨量 ライブ映像 気象 避難
	気象庁「あなたの街の防災情報」 	https://onl.la/eSjUtwU 警報発表の時期や雨雲の動き、浸水・洪水の危険度分布(キキクル)等が確認できます。 	雨量 気象 キキクル
	板橋区気象情報 	http://www.micosfit.jp/itabashi/ 荒川・新河岸川の水位が確認できます。	水位 雨量 気象 ライブ映像
電話	荒川下流河川事務所「水位・雨量自動応答装置」	03-3902-2393 電話を掛けると自動音声によって岩淵水門付近の観測水位と雨量が確認できます。	水位 雨量
テレビ	データ放送 	ご家庭のテレビのリモコンの「dボタン」を押して、TOPメニューの「河川水位雨量情報」および「防災・災害情報」(NHKの場合)を選択します。	水位 雨量 気象

川の氾濫（外水氾濫）

大雨で川の水の量が増え、堤防の高さを越えたり、堤防が壊れたりして、川から水があふれることを「川の氾濫（外水氾濫）」と言います。

強い雨が長く降るときや、自宅周辺の雨がそれほど強くなくても、川の上流で強い雨が降っているときには、警戒が必要です。

小さな川は、大きな川と違って、大雨で急に水の量が増えるので注意が必要です。事前に避難を呼びかけることが非常に難しいため、私たち一人ひとりが情報を集めて、自らの命を守ることが、よりいっそう大切になります。川の氾濫が起こった時に、どこが危険なのかは各自治体が公開しているハザードマップで確認できます。

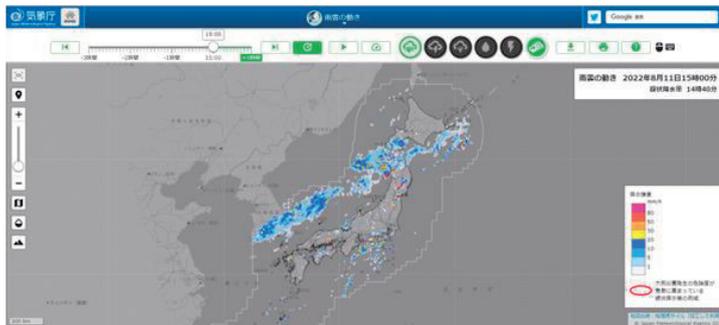
雨が降り続いて不安に思っても、川の様子を見に行かないでください。



参考となる情報

■ 気象レーダー画像

現在どこで雨が降っているのか、今後どこで、どの程度の雨が降りそうかという情報は、大雨によるすべての災害に対する備えの基本です。気象レーダーで雨雲の様子を確認しましょう。気象庁のレーダーのほか、様々なアプリや、テレビのデータ放送等でも雨雲の様子を確認することができます。



雨雲の動き（高解像度降水ナウキャスト）
★「気象庁」「雨雲の動き」で検索 

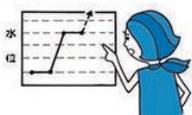
スマートフォン以外の方はこちらを参考に
レーダー・ナウキャスト（降水・雷・竜巻） 

■ 川の防災情報

大きな川の水位のリアルタイム情報やライブカメラの映像、洪水予報等の情報は、「川の防災情報」で確認することができます。

★「川の防災情報」で検索 

川の水位は
上がってるかしら？



水害のおそれがある場合 防災情報の入手～その3～



参考となる情報

■ 指定河川洪水予報

大きな川に対しては「指定河川洪水予報」という情報が発表されます。水位の上昇に応じて段階的に危険度を知らせるといった仕組みになっています。

★「指定河川」「洪水」で検索



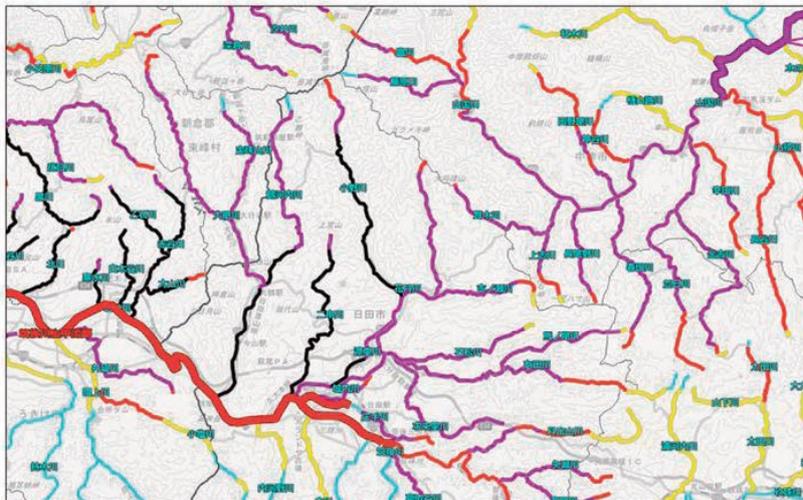
洪水予報	状況	警戒レベル※
氾濫注意情報	避難先、避難経路等を確認する	2相当
氾濫警戒情報	避難の準備を始める等警戒を強める	3相当
氾濫危険情報	いつ氾濫してもおかしくない	4相当
氾濫発生情報	すでに氾濫が発生	5相当

氾濫危険情報
ですぐ避難！

■ 洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）

気象庁の提供する洪水キキクルでは、川の危険度の高まりを確認できます。特に中小の川の近くにいる方は、この情報を参考にしてください。

★「洪水キキクル」で検索



紫
ですぐ避難！

指定河川洪水予報
〔国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。〕

危険度

- 高 氾濫発生情報【警戒レベル5相当】
- 危険 氾濫危険情報【警戒レベル4相当】
- 警戒 氾濫警戒情報【警戒レベル3相当】
- 注意 氾濫注意情報【警戒レベル2相当】
- 発表なし

洪水害の危険度

- 高 災害切迫【警戒レベル5相当】
- 危険 危険【警戒レベル4相当】
- 警戒 警戒【警戒レベル3相当】
- 注意 注意【警戒レベル2相当】
- 今後の情報等に留意

■ NHK総合テレビのデータ放送（dボタン）

NHK総合テレビのデータ放送でも川の水位の情報を見ることができます。気象情報や避難に関する情報等も見ることができます。

日ごろから使って、慣れておきましょう。



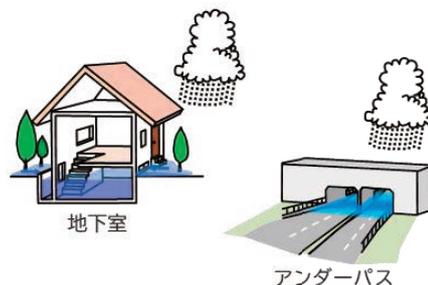
画面：実際のNHK画面を基にイメージを作成

水害のおそれがある場合 防災情報の入手～その4～

浸水害（内水氾濫）

短時間に集中して降る豪雨等により、水路や下水道の排水能力を超える大雨が降ったり、川の水位上昇により十分に排水できなくなると、マンホールや側溝から雨水があふれ、住宅地や道路が冠水することがあります。これが内水氾濫です。

川の氾濫と比べて短時間で状況が大きく変化したり、川から離れた場所でも冠水する危険があります。特に、地下室やアンダーパス等周りに比べて低いところは危険度が高くなります。

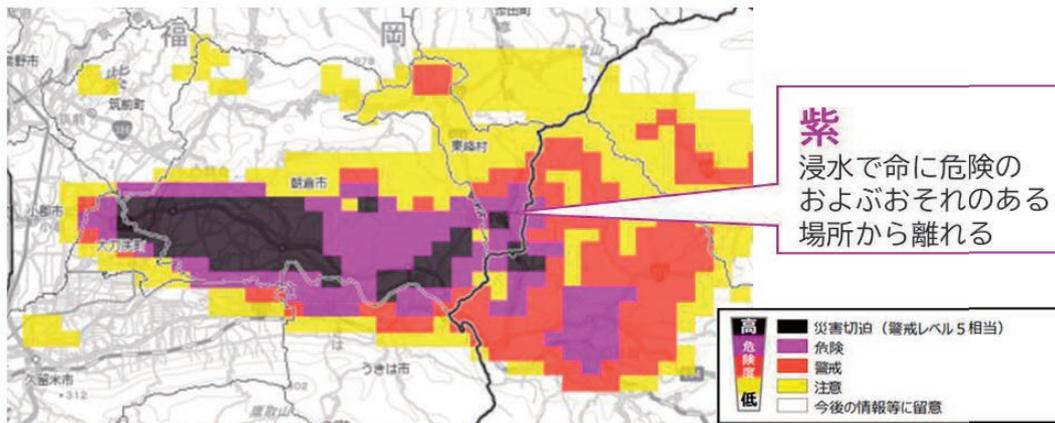


浸水で命に危険のおよぶおそれのある場所の例

参考となる情報

■ 浸水キキクル（大雨警報（浸水害）の危険度分布）

気象庁の提供する浸水キキクルでは、浸水害の危険度の高まりを確認できます。



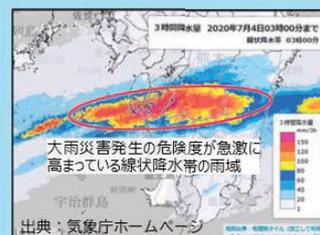
その他の参考情報

● 記録的短時間大雨情報

「記録的短時間大雨情報」は、大雨警報の発表中、1時間に100mm程度の猛烈な大雨を観測した場合に、災害への一層の警戒を呼び掛けるために発表されます。

● 顕著な大雨に関する気象情報（線状降水帯に関する情報）

顕著な大雨に関する気象情報は、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。



! これらの情報が発表されたときは、
災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

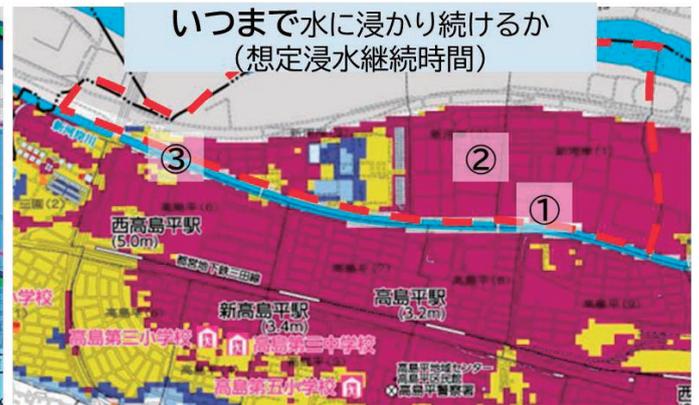
崖や川の近く等、危険な場所にいる方（土砂災害警戒区域や浸水想定区域等、災害が想定される区域にいる方）は、地元自治体から発令されている避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとってください。周りの状況を確認し、避難場所への避難がかえって危険な場合は、少しでも崖や沢から離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所に移動する等、身の安全を確保してください。市町村から避難情報が発令されていなくても、今後、急激に状況が悪化するおそれもあります。キキクル（危険度分布）や水位情報等の情報を確認し、少しでも危険を感じた場合には、自ら安全な場所へ移動する判断をしてください。

水害のおそれがある場合

想定浸水深と想定浸水継続時間

想定浸水深・浸水継続時間

荒川が氾濫した場合、地区はあっという間に浸水しますので事前の避難が大切です。



※下記の区域は早期立ち退き避難が必要です。
 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流) 氾濫流の襲撃により、標準的な木造家屋の倒壊等をもちたすような氾濫が想定される区域



浸水継続時間 Inundation duration
0～12時間未満 0 hour - less than 12 hours
12～24時間(1日)未満 12 hours - less than 24 hours (1 day)
24～72時間(3日)未満 24 hours - less than 72 hours (3 days)
72～168時間(1週間)未満 72 hours - less than 168 hours (1 week)
168～336時間(2週間)未満 168 hours - less than 336 hours (2 weeks)
336時間(2週間)以上 336 hours (2 weeks) or more

地点	荒川		
	計画規模 (100年に1度の規模)	最大規模 (想定される最大規模)	最長の 浸水継続時間 (50cm以上の浸水)
① 新河岸小学校	3.95m	5.05m	4週間以上
② 新河岸2丁目 アパート	4.56m	6.25m	4週間以上
③ 新河岸公園	4.10m	5.75m	4週間以上

出典：国土交通省浸水ナビ

想定される浸水の深さ



※荒川下流河川事務所 荒川3D洪水浸水想定区域図より

より適切な避難に向けて

命を守るには ～その1～

避難行動について

安全に避難をするために、台風の接近前やバスや電車が動いている時間に余裕をもって「事前避難」を行ってください。万が一、逃げ遅れた場合には、高い建物の上層階へ避難してください。

なお、台風が過ぎ去った後に、河川水位が最も高くなる可能性があるため、気を緩めないでください。

事前の避難

↓↓こんな時に行う避難↓↓

- ・ 台風の接近前
- ・ 傘をさしても歩ける雨風
- ・ バスや電車が動いている
- ・ 高齢者等避難の発令等

分散避難
(縁故等避難)

浸水のおそれがない所に居住する家族、親戚、知人の家やホテルなどへ早めに避難する。

高台避難
(避難所避難)

- ・ 可能な限り区内の浸水が及ばない地域に避難する。
- ・ 区が指定する避難所が開設していることを確認し、できるだけ早く避難をする。

緊急時の避難

↓↓こんな時に行う避難↓↓

- ・ 緊急安全確保の発令
- ・ 堤防の決壊
- ・ 浸水まで時間の余裕が無い

緊急垂直避難

高台へ避難する時間的猶予がない場合、近くの丈夫な建物の上層階(4階以上)に移動し避難する。

自宅での避難

↓↓こんな方が行う避難↓↓

- ・ 浸水被害が想定されていない地域の方
- ・ 避難指示等が発令されていない地域に居住の方

在宅避難

お住まいが浸水区域外や家屋倒壊の恐れがない丈夫な建物の上層階の場合、食料などを確保したうえで自宅にとどまって避難をする。

避難は浸水が始まる前に行いましょう！

より適切な避難に向けて 命を守るには ～その2～

避難の開始

余裕を持った避難を行うためには、**水位等の情報に注意**し、適切なタイミングで避難を開始することが重要です。

避難所へ行くには、自力で避難が可能な方でも**1時間程度**必要となります。以下の情報を目安に、早めに避難を始めましょう。

避難の方法

徒歩での避難が基本です。

車での避難は渋滞に巻き込まれたり、水に浸かってしまうと動けなくなったりすることもあるため、たいへん危険です。



万が一逃げ遅れた場合の避難

浸水が始まり、逃げ遅れた場合には無理に避難所に行かず、現在の場所にとどまることや、近くの高い建物（4階以上）に避難します。

その際には、**約2週間以上の孤立のおそれ**があります。

孤立した時の留意事項→ 水や食料を備蓄しているか

簡易トイレの準備をしているか

病人が出た場合に対応が難しい

定期的な診療を受けている人が診療をうけられない

浸水した状態では、道路と側溝、用水路の境が見分けられずに水流に流される事故や、マンホールの蓋が開いて下水に落ちる事故が発生しているため危険です！

より適切な避難に向けて

命を守るには ～その3～

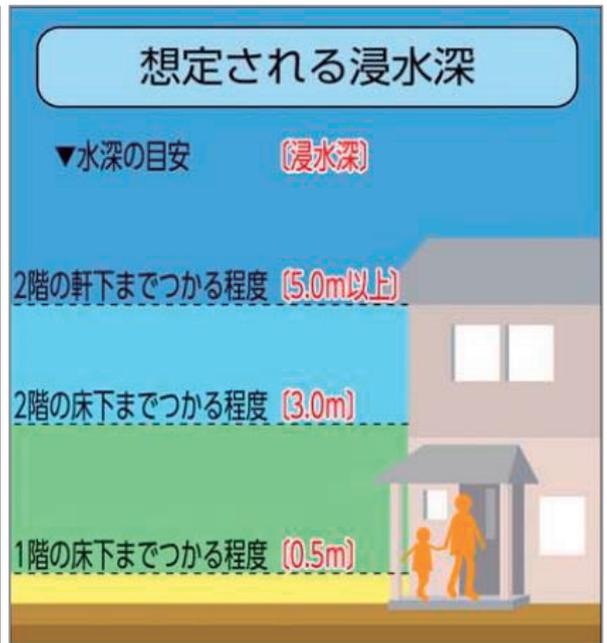
新河岸地区から近い避難所

水害時における避難所の開設は、区の災害対策本部が決定します。

新河岸地区から近い避難所は複数ありますが、荒川や新河岸川氾濫の危険性の度合いによって開設される避難所は変わります。**どの避難所が開設されているかは、区から発表される避難情報等で確認してください。**

下記4つの避難所については、新河岸地区住民が避難するタイミングで開設しています。

避難情報は防災行政無線、広報車、防災メールなどから取得することができます。



■お近くのバス停から行ける避難所

新河岸都営住宅入口バス停から

➤ 北野小

高島平駅バス停から

➤ 赤二中

➤ 成増小

➤ 赤三中

凡例 Legend	
	避難所 第1段階(氾濫警戒) Evacuation Shelter Level 1 (warning on flood)
	避難所 第2段階(氾濫危険) Evacuation Shelter Level 2 (flood hazard)
	区役所 City Office
	警察署 Police Station
	消防署 Fire Station
(27.5m)	海拔(標高) Height above Mean Sea Level

※下記の区域は早期立ち退き避難が必要です。

家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流) 氾濫流の直撃により、標準的な木造家屋の倒壊等をもたらすような氾濫が想定される区域

より適切な避難に向けて

命を守るには ～その4～

地域内の助け合いの考え方

地域内には避難の支援が必要な「**要配慮者**」がいます。水害時には、地域内で助け合って全員が安全に避難することが大切です。

- 高齢者
- 障がい者
- 難病患者
- 乳幼児
- 妊産婦
- 外国人の方 など



避難支援をする時の注意点

避難支援の方法は以下の点に注意して行いましょう。

- 避難支援者は、支援が必要な方と一緒に避難を完了しましょう。どうしても自宅に戻るなど避難先を出なければならない場合は、ひとりでは行動しないようにしてください。
- 避難場所への移動が困難な場合、**支援が必要な方を建物の上階（4階以上）へ避難させるようにしてください。**

支援者が人を上階に避難させる時の目安

【布担架を使用】

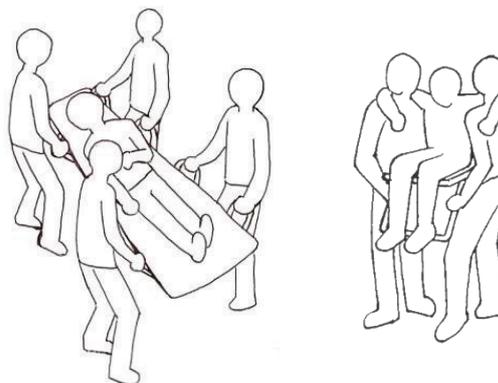
一般成人男性 4人

【椅子を使用】

一般成人男性 2人

布担架に代用できる資材

- ・ 毛布
- ・ シーツ
- ・ カーテン



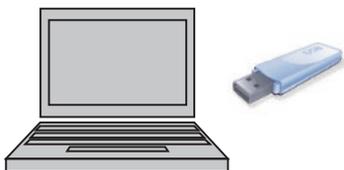
より適切な避難に向けて 被害を減らすには

財産の保護

危険な水位に達する前に財産の保護を終え、ご自身や地域の方の身を守ることを優先しましょう。日頃からの準備が重要です。

財産の例

守る必要のある財産として以下の物が考えられます。

1. 重要書類(通帳等) 	2. 着替え 	3. パソコン(データ) 
4. 位牌 	5. 書類(アルバム等) 	6. 自動車 

守る財産のリスト

守る必要のある財産とその優先順位を確認して、その方法を書き込みましょう。守る方法は自宅の浸水深を踏まえて決めましょう。

優先順位	守る財産	守る方法
1		
2		
3		
4		
5		

より適切な避難に向けて

避難所での生活 ～その1～

非常持ち出し品の用意

避難場所での生活に **最低限必要なもの（3日分程度）** を用意します。
すぐに避難できるように普段から必需品はリュックなどに準備しておきましょう。**用意には30分以上掛かる**とを考えて下さい。

非常持ち出し品リスト

●非常持ち出し袋に入れておくもの

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 非常食・飲料水(多めに) | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ（予備電池） | <input type="checkbox"/> 懐中電灯（予備電池） |
| <input type="checkbox"/> 衣類（下着、上着、手袋、靴下、ハンカチ、タオルなど） | <input type="checkbox"/> 生活用品（ライター、ナイフ、缶切り、ティッシュ、ビニール袋、歯ブラシ） |
| <input type="checkbox"/> 救急医療薬（ばんそうこう、ガーゼ、包帯、かぜ薬、マスクなど） | <input type="checkbox"/> 消毒用品(アルコール消毒・ハンドソープ・固形石けん) |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てビニール手袋・使い捨てビニールエプロン・ゴミ袋 | <input type="checkbox"/> 体温計 |
| <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ・ペーパータオル | <input type="checkbox"/> 運動ぐつ |
| | <input type="checkbox"/> 携帯トイレ |

●避難する時に必ず持ち出すもの

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 健康保険証（身分証明書） | <input type="checkbox"/> 携帯電話（充電器） |
| <input type="checkbox"/> 現金などの貴重品 | <input type="checkbox"/> マイナンバーカード・通帳 |

●家族構成によって必要なもの

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 常用薬（持病のある方） | <input type="checkbox"/> おくすり手帳 |
| <input type="checkbox"/> 粉ミルク・紙おむつ | <input type="checkbox"/> 介護用品 |
| <input type="checkbox"/> 生理用品 | |

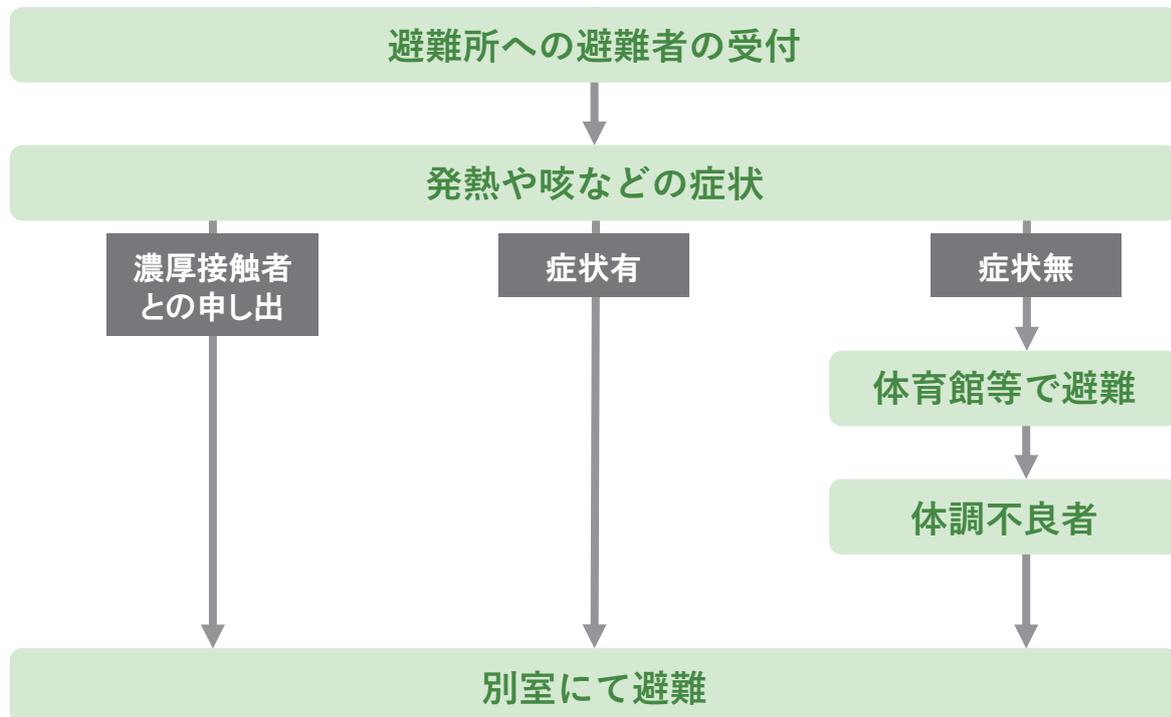
●あると便利なもの

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 毛布、寝袋 | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> カセットコンロ | <input type="checkbox"/> 割りばし |
| <input type="checkbox"/> 床に敷くシート | <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー |

※ほかに必要だと思うものがあれば、書き加えましょう。

より適切な避難に向けて 避難所での生活 ～その2～

受付から部屋割りまでの流れ



みんなの感染対策

新型コロナウイルスなどの感染症が流行している場合は、人が多く集まる指定避難所での避難に限らず、家族・友人宅への縁故避難や在宅避難を検討します。

避難所での避難を行う場合は下記に示す①～③を守り、みなさんと、感染症の拡大を防止しましょう。

- ①避難所では、マスク着用は必須です！持参しましょう
- ②手指消毒・手洗いをしましょう！
- ③体調が悪い場合は、すみやかに避難所運営本部に伝えましょう！

より適切な避難に向けて 避難所での生活 ～その3～

ペットの避難

避難所に飼っているペットを連れて避難する場合には、以下のことに注意が必要です。

ペット避難の準備

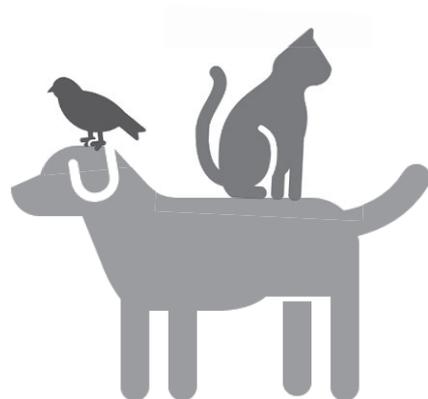
- 飼い主がケージ等を用意してください。
餌や水などの用意、餌やりや糞尿の始末は飼い主自身が行えるようにしてください。
- 基本的なしつけ（無駄吠えしない、飼い主の指示に従うなど）ができていることが必要です。
- 犬については、狂犬病注射済票を持参してください。
（予防接種を受けていない場合、伝染病が蔓延する可能性があるため、避難所では受入れできません。）

ペット受入れスペース

避難所には、動物が苦手な人やペットのアレルギーを持った人もいるため、人とペットの居住区は分けることが原則です。

預け先の確保

親戚や友人等、いざというときにペットの預かり先を探しておきましょう。



水害に備えて

水害に備えて 新河岸地区の水害リスク

想定される水害

荒川	板橋区洪水 ハザードマップ (荒川版)	平成28年5月30日に国土交通省が公表した「洪水浸水想定区域図」(水防法の規定による想定最大規模降雨、荒川が流れる地域で3日間での総雨量632mmの降雨があった場合)に基づき作成。(令和3年7月作成)
集中豪雨	板橋区洪水 ハザードマップ (集中豪雨版)	東京都が作成した浸水予想区域図を基に、想定最大規模の降雨(総雨量690mm, 1時間雨量153mm)があった場合に想定される浸水状況。(令和3年7月作成)

板橋区洪水ハザードマップ (荒川版)

※下記の区域は早期立ち退き避難が必要です。
 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流) 氾濫流の進路により、標準的な木造家屋の倒壊等をもたらすような氾濫が想定される区域

凡例 Legend	
	避難所 Evacuation Shelter
	区役所 City Office
	警察署 Police Station
	消防署 Fire Station
	土のうステーション Sandbag Base
(27.5m)	標高 Height above Mean Sea Level



板橋区洪水ハザードマップ (集中豪雨版)

凡例 Legend	
	避難所 Evacuation Shelter
	区役所 City Office
	警察署 Police Station
	消防署 Fire Station
	土のうステーション Sandbag Base
(27.5m)	標高 Height above Mean Sea Level



新河岸地区で注意すべき降雨

荒川

- 源流は日本百名山のひとつ甲武信ヶ岳
- 新河岸地区で雨が降っていなくても、川の水かさが増える恐れがあります。
- 流域面積：2940 km²（新河岸川の約7倍）
- 延長(全長)：約173km（新河岸川の約5倍）



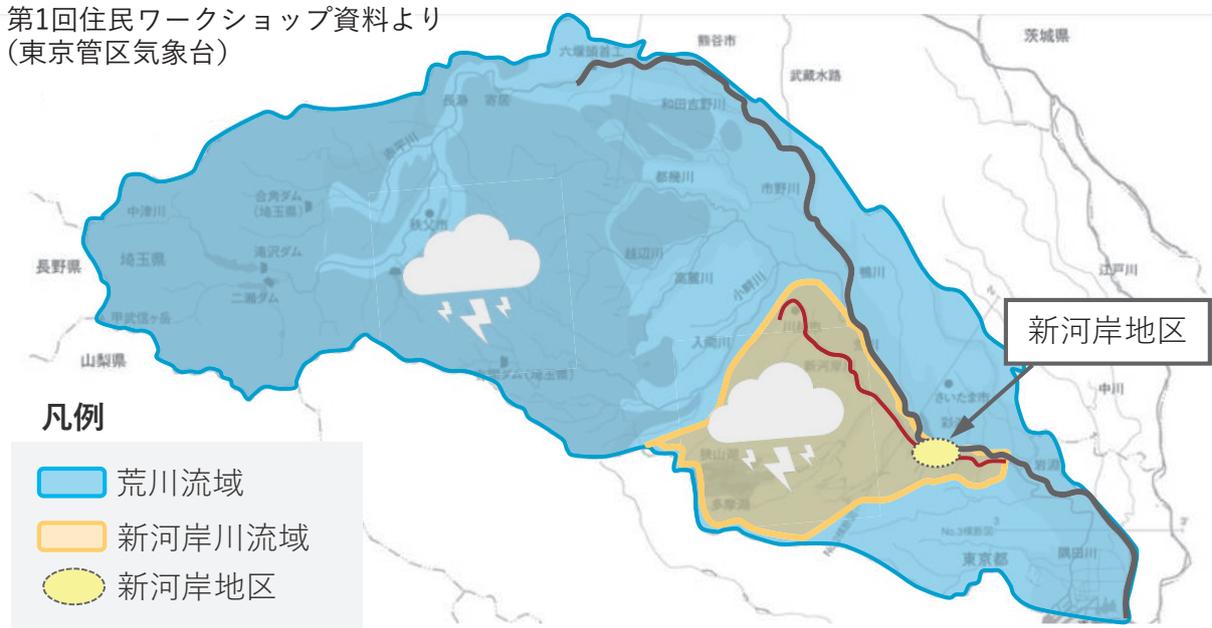
新河岸川

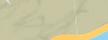
- 源流は川越市の狭山丘陵
- 板橋区やその近隣（狭山市・川越市・和光市）で、激しい雨が降った場合に注意が必要です。
- 流域面積：411 km²
- 延長(全長)：約35 km



荒川と新河岸川では流域の広さが違う！

第1回住民ワークショップ資料より
(東京管区气象台)



- 荒川の洪水は、埼玉県中心に**広範囲**（上図 ）で数日間大雨が続いた時に発生しやすい
- 新河岸川の洪水は、流域内（上図 ）で短時間に大量の雨が降った場合に発生しやすい

過去の事例

令和元年10月 台風19号

【概要】

10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、マリアナ諸島を発達しながら西へ進み、7日には大型で猛烈な台風となりました。

主な雨量観測所の雨量は、三峰561mm、秩父519mm、浦山647mmでした。



【河川水位】

荒川の岩淵水門（上）観測所では、カスリーン台風（昭和22年9月）、狩野川台風（昭和33年9月）に継ぐ、過去3番目の最高水位を観測した。

累積雨量



※ 荒川の増水が心配されるときに注意する気象予報の発表区分（注意報・警報）

● 埼玉県秩父地方（秩父市、小鹿野町、横瀬町、皆野町、長瀬町）

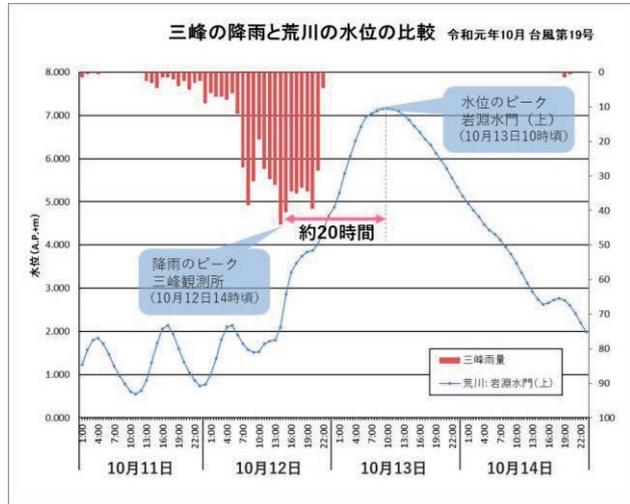
水害に備えて

降雨と水位の関係 ～その2～

過去の事例

令和元年10月 台風19号

埼玉県を中心に広範囲で降った雨が新河岸地区付近に到達するまでの時間は、**約20時間**の差がありました。



水害に備えて

避難情報と川の水位

洪水予報

※ 荒川の埼玉県側にある「治水橋」や「熊谷」の水位にも十分注意しましょう。

治水橋

警戒レベル 指定河川洪水予報

5 氾濫発生情報

計画高水位

4 氾濫危険情報

氾濫危険水位 (A.P. +12.70m)

3 氾濫警戒情報

避難判断水位 (A.P. +12.20m)

2 氾濫注意情報

氾濫注意水位 (A.P. +7.50m)

荒川堤防

※ 川の防災情報HPより

熊谷

警戒レベル 指定河川洪水予報

5 氾濫発生情報

計画高水位

4 氾濫危険情報

氾濫危険水位 (A.P. +5.50m)

3 氾濫警戒情報

避難判断水位 (A.P. +5.00m)

2 氾濫注意情報

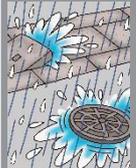
氾濫注意水位 (A.P. +3.50m)

荒川堤防

※ 川の防災情報HPより

雨や風の強さの目安

雨の強さの目安

<p>やや強い雨 10～20mm/時間</p>	<p>ザーザーと降り、地面一面に水たまりができる。</p>	
<p>強い雨 20～30mm/時間</p>	<p>どしゃ降りとなり、傘をさしていても濡れるようになる。側溝や下水小さな川があふれる。</p>	
<p>激しい雨 30～50mm/時間</p>	<p>バケツをひっくり返したように雨が降り、道路が川のようになる。</p>	
<p>非常に激しい雨 50～80mm/時間</p>	<p>滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすくなる。</p>	
<p>猛烈な雨 80mm以上/時間</p>	<p>息苦しくなるような圧迫感がある。雨による大規模な災害が発生するおそれ強い。</p>	

風の強さの目安

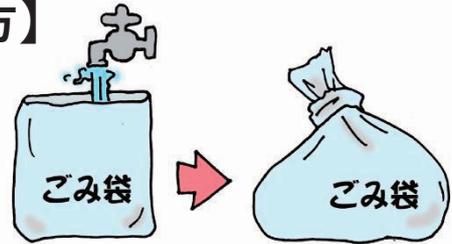
<p>やや強い風 10～15m/秒</p>	<p>取り付けの不完全な看板やトタンが飛び始める。風に向かって歩きにくくなる。</p>	
<p>強い風 15～20m/秒</p>	<p>ビニールハウスが壊れ始める。風に向かって歩けなくなり、転倒する人もでる。</p>	
<p>非常に強い風 20～25m/秒</p>	<p>鋼製シャッターが壊れ始める。しっかりと体を確保しないと転倒する。</p>	
<p>非常に強い風 25～30m/秒</p>	<p>木が倒れたりブロック塀が壊れる。立っていられなくなり、屋外の行動は危険。</p>	
<p>猛烈な風 30m以上/秒</p>	<p>屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が起こり始める。</p>	

簡易水のう工法

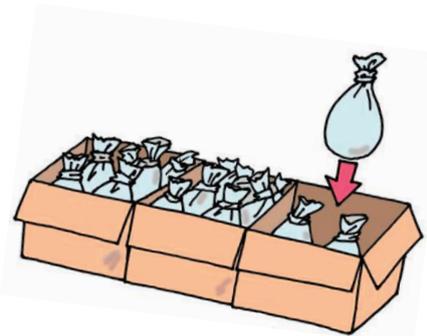
浸水による自宅への被害を軽減するには、ご家庭にあるものを使って家屋への浸水を防ぐ、簡易水のう工法が効果的です。

【ごみ袋を使った簡易水のうの作り方】

- ① 40ℓ程度のごみ袋を二重にして、中に半分程度水を入れます。

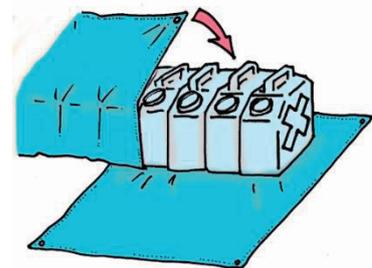


- ② 水の入ったごみ袋を、段ボールの中に入れて使用します。
また、増水時にはトイレから水が吹き上がることもあるため、ビニール袋を重しにして抑えると効果的です。



【その他の簡易水のう工法】

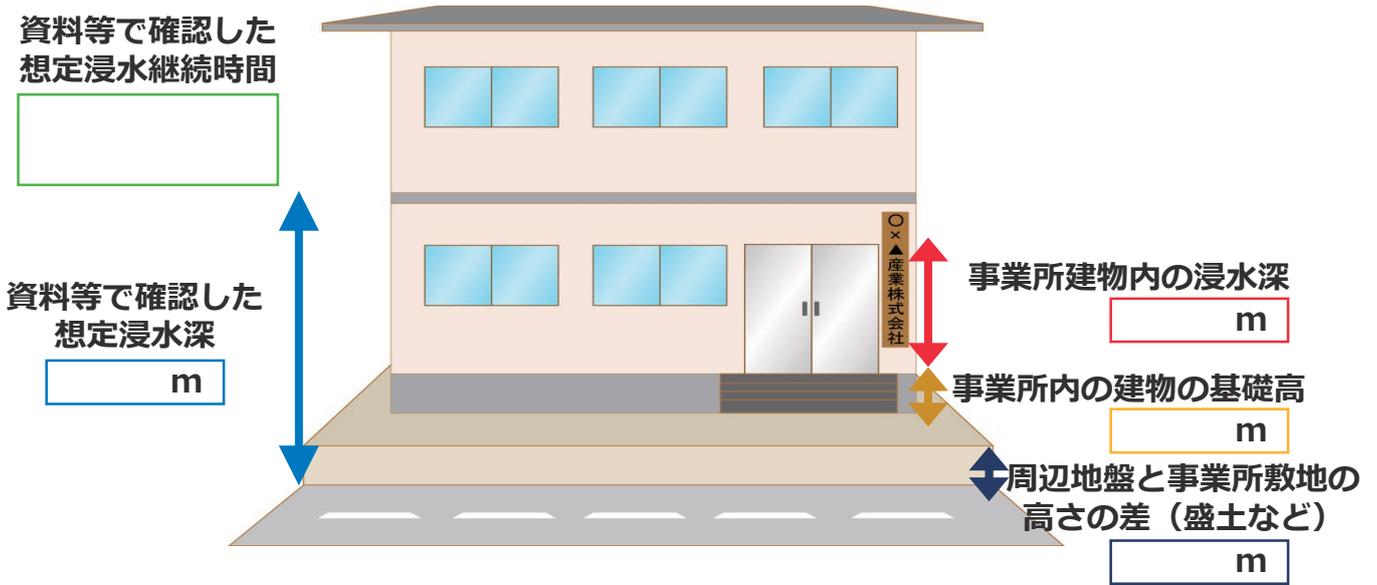
- 10リットル又は20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで包んで使います
- 吸水性ゲル水のうを簡易水のうとして使います。吸水性ゲルは、軽量、コンパクトですが、水を吸うと膨張します。



事業所の建物・設備被害の検討

建物・設備の被害検討の進め方

建物や設備などの被害検討では浸水時の水の深さや水の流れの強さに着目します。まずは、ハザードマップや事業所の図面などで確認し、事業所内の建物ごとに以下の空欄を埋めてみましょう。



$$\text{事業所建物内の浸水深} = \text{想定浸水深} - \text{盛土高など} - \text{建物の基礎高}$$

m m m m

事業所設備（生産機械）などの設置位置の確認

事業所が浸水する場合の最大の深さを見ながら、以下の点から事業所設備の被害状況を確認しましょう。

- 事業に必要な設備はどれくらい浸水しますか。
- 設備が浸水する場合、水面以下に精密・電子部品など浸水することで故障する箇所はありますか。
- 汚れることで機能が損なわれるものはありますか。

※洪水では汚水や流出物が混じることが多いため、浸水した箇所はヘドロなどが張り付いた状態になることがあります。



1. 想定される事業所内での浸水深から各種設備が浸水するかを確認
2. 浸水した場合に故障や不具合が生じるかどうかを判断
3. 復旧可能な故障や不具合か、復旧不可能な故障・不具合かを判断

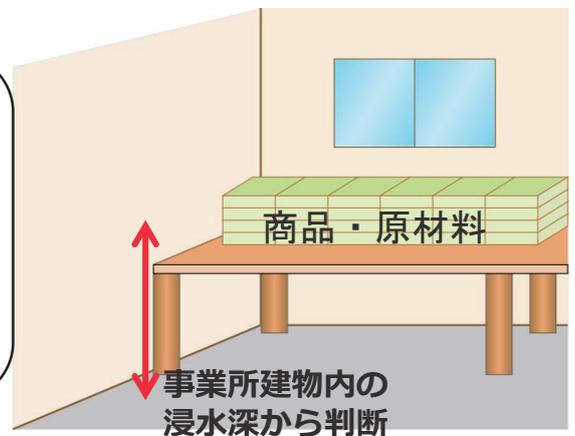
商品や原材料などの保管場所の高さと浸水深の確認

事業所が浸水する場合の最大の深さを見ながら、以下の点から商品や原材料などの被害状況を確認しましょう。

- 商品や原材料の保管施設はどれくらいの浸水深になりますか。
- 商品や原材料の保管位置はどれくらい浸水深しますか。
- 浸水し、汚れても利用可能な商品や原材料ですか。
- 浸水・流失しても地域に被害を与えない商品・原材料ですか。



想定浸水深と事業所の図面からみると我が社の保管庫では商品が若干浸水してしまいます。
水に濡れると商品価値が無くなってしまうため、現状では全ての商品が被害を受けることになりそうです。



重要データや書類被害の被害検討の進め方

重要データや書類被害の検討でも、前のページで算出した事業所での浸水深を用いて検討を進めます。以下の手順で整理していきましょう。

1. 事業を行うために必要な書類やデータのリストアップ
2. リストアップされた項目の保管場所の確認
3. 保管場所の浸水可能性と水深の確認
4. 浸水による被害状況の判断

※総務・経理のみではなく、設計データや品質管理データなども重要書類・データであることに留意しましょう

万が一の事態に備えるためには、水害が発生した場合を想定し、犠牲者を無くし、財産被害を軽減するための行動を考えておく必要があります。

そのためには、次のような行動がポイントになります。



- 大雨・洪水時の状況把握や情報収集
- 余裕を持った適切な避難
- 全員が安全に避難するための地域内の助け合い
- 非常持ち出し品の用意などの事前の備え
- 水に浸かっては困る財産の保護・普段からの対策

◆ 緊急連絡先【電話及びメールアドレス】

(連絡先をあらかじめ記入)

この避難ルールブックでは、上記のポイントや行動の目安となる情報について記載・解説しています。水害のおそれがある場合には、このルールブックを参考に行動してください。

令和5年12月 いたばしコミュニティ防災【新河岸地区】

制作協力：国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所・板橋区危機管理部